



卵

ふ化

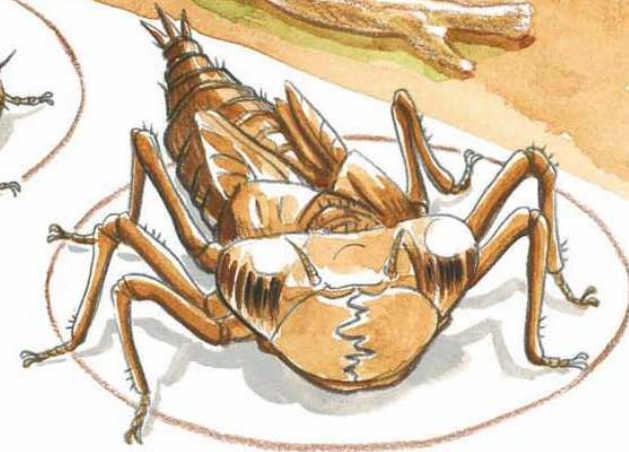
ヤゴ、一齡
(2mmくらい)

キコ丸君は、お母さんから生まれたとき、0.6～0.7mm くらいの小さな小さな卵でした。約1か月間、卵のままですごしたあと、ふ化してヤゴとよばれる幼虫になります。そして、水のきれいな川底の、どろまじりの砂の中で、5年間はヤゴとして生き続けます。その5年の間に、10回ほど脱皮（成長につれて古い表皮をぬぎすてること）をくりかえして、大きく成長するのです。成虫（トンボ）になる最後の脱皮の直前には、体長が5cmにもなっていました。

こうしてキコ丸君は、晴れてトンボのオニヤンマになれたのです。しかし、そうなるまでには、いろいろな災難や危機にみまわれてきました。



5年間で10回ほど
脱皮をくりかえす



終齢幼虫
(5cmくらい)